

派遣プログラムの内容について

平成28年度冬学期にイタリアのボッコーニ大学に1学期間の交換留学を行った。留学先での身分は「修士」としてであった。派遣先大学では、修士の身分であれば、学部および大学院レベルの科目から最大5科目（最低2科目）まで履修することが可能であった。私は派遣先大学では、大学院レベルの科目を2科目とイタリア語の語学クラス（夏季集中講座および通学期のもの両方）を受講した。通常授業については、「都市・観光開発の授業」と「ミュージアムマネジメント」を受講したが、どちらも大学院レベルの授業であったために、ひとつひとつの科目の負担が重く、授業時間外にも多くのリーディングや課題・通学期のプロジェクトに取り組む必要があった。また、イタリア語の授業についても、すべてイタリア語で進められていたため、毎回授業についていくのはもちろんのこと、予習復習や課題をこなしていくことがとても大変だった。

学習成果について

ボッコーニ大学での授業を通じて、イタリア本国の学生はもちろんのこと、他国出身の留学生たちとも、共に勉学に励むことができたことがとても良い経験となった。日本にいるときよりも、自ら発言していく積極性やリーダーシップを求められる場面が多くあり、自らの学習に対する態度を向上させることができたのではないかと考える。

また、ボッコーニ大学において履修を行った科目については、日本の大学ではなかなか学ぶことのできない留学先のイタリアならではの独特な内容（観光・都市開発の授業、ミュージアムマネジメント）であった。どちらの授業においても、ヨーロッパの第一線で活躍をされている方や教鞭をとられている方々からレクチャーを受け、ケース・スタディのプロジェクトにおいて直接指導を受けられたことは大変良い経験となった。

海外での経験について

イタリアで4ヶ月もの間、現地の人のように暮らすことで、独自の風土や慣習について学べたことが一番得がたい経験となった。今後、日本にいなながらも知識としてイタリアという国を知ることはできただろうけれど、やはり実際に暮らしてその国の文化を直接肌で感じながら暮らしていく経験を通じて、自らの見聞を広げることができたのではないかと考える。